

# 分子病態学 I

## 授業概要

本講義は臨床医学的立場から開講される分子病態学 II を理解するために必要な基礎的内容を展開する。具体的な各種疾病の分子病態学、予防や治療の分子メカニズム、分子生物学的知識に基づいた分子病態学を基礎系、産学連携センターの教員が中心となり講義する。

## 担当教員

中村守彦（主担当）	教授・産学連携センター	地域医学共同研究部門
土屋美加子	教授・代謝生化学	
橋本道男	准教授・環境生理学	

## 一般目標

1. 各種疾病の発症・進展要因ならびに機構を分子レベルで理解する。
2. 遺伝子発現制御機構の破綻を引き起こす機序を理解する。
3. 生体機能分子であるタンパク質の機能制御とその異常を理解する。

## 行動目標

1. 各種疾病の発症・進展過程を分子レベルで説明出来る。
2. 転写調節因子の活性制御機構とその異常を引き起こす因子を列挙して説明できる。
3. タンパク質の翻訳後修飾による機能調節とその破綻による病態を説明できる。

## 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

## 使用テキスト・参考文献

資料を配付する。また、適宜参考文献を紹介する。

教育内容（講義および演習）

回	授業内容	担 当
1	認知症の発症・進展の分子病態学	橋本道男
2	アルツハイマー病の分子病態学	〃
3	認知症の予防・治療法の分子メカニズム	〃
4	脂質代謝異常と神経疾患	〃
5	転写制御機序の多様性 1	土屋美加子
6	転写制御機序の多様性 2	〃
7	転写制御機序の多様性 3	〃
8	転写制御機序の破綻と疾患 1	〃
9	転写制御機序の破綻と疾患 2	〃
10	タンパク質の翻訳後修飾とその異常 1 リン酸化	中村守彦
11	タンパク質の翻訳後修飾とその異常 2 ユビキチン化	〃
12	タンパク質の翻訳後修飾とその異常 3 ニトロシル化	〃
13	タンパク質分解の異常と疾患 1	〃
14	タンパク質分解の異常と疾患 2	〃
15	タンパク質分解の異常と疾患 3	〃